

(1/19 朝日)

トマホーク400発

日本へ売却承認

米政府 新型・旧型半数ずつ

米政府は17日、米国製巡航ミサイル「トマホーク」の日本への売却を承認し、米議会に通知した。最新型の「ロック5」と旧型の「ロック4」を合わせて最大400発、売却する。日本政府が導入を決めた敵基地攻撃能力（反撃能力）の保有に向けた動きが本格化することになる。

米政府は17日、米国製巡航ミサイル「トマホーク」の日本への売却を承認し、米議会に通知した。最新型の「ロック5」と旧型の「ロック4」を合わせて最大400発購入する計画だったが、半数の200発を旧型の「ロック4」に置き換え、当初計画から1年早く倒して2025年度から導入する予定だ。

日本政府は22年12月に改定した安全保障関連3文書に敵基地攻撃能力の保有を新たに盛り込んだ。トマホークを、国産の長射程ミサイルを実戦配備するまでの「つなぎ」の防衛装備品と位置づけている。（清富涼）

23億5千万ドル（約3500億円）の見通し。日本

政府は当初、最新型の「ロック5」を400発購入する計画だったが、半数の200発を旧型の「ロック4」に置き換え、当初計画から1年早く倒して2025年度から導入する予定だ。

自衛隊がトマホークを導入するにあたって「困難はない」とも指摘した。

米政府は声明で、トマホークについて「優れた（敵の射程圏外から攻撃する）スタンダード・オーフ能力を持ち、増大する脅威を無力化することができる」と説明。今回の売却により「日本が現在と将来の脅威に対処する能力を向上させる」とした。

日本政府は22年12月に改定した安全保障関連3文書に敵基地攻撃能力の保有を新たに盛り込んだ。トマホークを、国産の長射程ミサイルを実戦配備するまでの「つなぎ」の防衛装備品と位置づけている。（清富涼）